

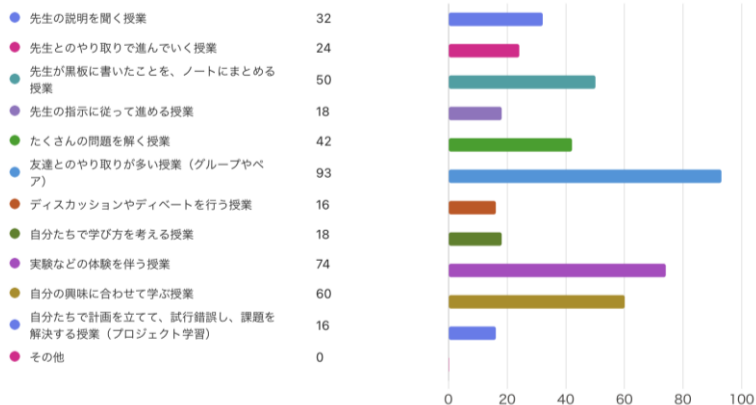
リーディングDXスクール事業【実践事例】

大仙市立中仙中学校（秋田県）【指定校】

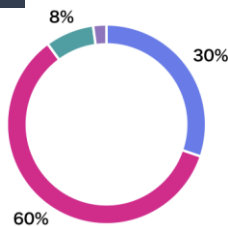
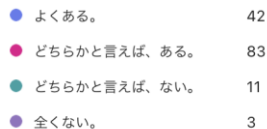
【取組内容】 個別最適な学びにするための教員の意識の変革

生徒へアンケート2025年1月段階のもの

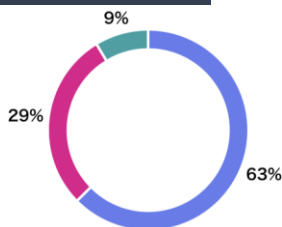
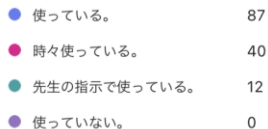
どんな授業が好きですか？



授業では、自分で学び方やペースを選んで学ぶ機会がありますか？



授業では、自分のタイミングで、目的に合わせて、タブレット端末を使っていますか？



Before: これまでは、教師の指示のもとタブレットを使うような授業スタイルであった。

After: 子どもの主体性を促し、より自分の学びのスタイルに合わせて選んでいけるような授業を構築しようと各教科で取り組んできた。

全ての教科で意識したことは、自分で決めること、自分で選ぶなどの「自己決定の場面を増やすこと」である。自らの学びを自己調整できる生徒の育成を目指しているため、こうした場面を意図的につくっていくことで生徒が変容してくるのではないかと仮説のもと研究してきた。

結果として、左図のように「授業では、自分で学び方やペースを選ぶ機会はあるか」という質問に90%の生徒が肯定的な回答であった。また、「自分のタイミングで目的に合わせてタブレット端末を使っているか」の質問では、92%の生徒が肯定的な回答をしており、**昨年度は50%以下だったものが改善されてきた。**

授業における「生徒の自己決定の場面」の増加は、生徒の学び方にも少しずつ影響を与えている。学び方が単線的なものだったものが複線型の授業が増えてきたことで、自分のペースに合わせて学び、安心して学びに向かう姿が見られてきた。